

2020 年度実施概要

学校名

洋野町立帯島小学校

採択活動名

海と森をつなげるふるさとの川を守ろう

実施単元

単元名	学年	教科
1. 洋野のウニを観察しよう	3 年生	総合
2. 海釣りを楽しもう	4 年生	総合
3. 高家川の水質を調べよう	5 年生	総合
4. 海につながる森林めぐみ	6 年生	総合

取り組みの概要

【3 年生】

「海に親しむ」ことをテーマとし、洋野町の特産であるウニについて関心を高めた。具体的には学年 PTA 行事の際、「ひろの水産会館ウニーク」で見学を行った。実際にウニを観察したりさわったりして、ウニに対する興味をもつことができた。また、飼育している方のお話を聞き、ウニの生態についても理解を深めることができた。見学が終わると近くの海、種市海浜公園へ行き、砂浜で遊んだり、海の生き物をさがしたりして海に親しむことができた。

体験したこと、学習したことは日記にまとめる等して、学習の振り返りを行い、発見や新たな気づきを友達同士で紹介しあうことができた。

【4 年生】

3 年生と同じく「海に親しむ」ことをテーマとし、環境アドバイザーの協力を得て体験活動や環境保全活動を行った。具体的には原子内水門付近の砂浜で、砂浜の現状を把握し、ごみ拾いを行った。また、砂浜でいさだ採りも行い、採ったいさだをエサとして、中野漁港で鰯釣り体験も行った。予想以上に釣ることができ、子どもたちは海釣りの楽しさを味わうことができた。

学習を通して、海に生きる生き物と砂浜の現状を知ることができた。その中で、砂浜にあるごみの種類をみて、なぜこんなごみがあるのかを子どもたちが考え、海に生きる生き物を守っていききたいという思いを強くもつことができた。

探究活動としては砂浜でのごみ拾いや海釣り等の体験をもとに、海のごみに関する現状や海釣りの楽しさを紹介する発表する資料を作成した。2 月に行われた授業参観では、保護者やお世話になった環境アドバイザーの方を招待して、体験したこと、調べたこと、海に対する思い等を紹介した。

4 年生は現在、学習の視点を広げ、洋野の特産であるウニの稚魚を教室で育てている。観察やお世話を通してウニの生態についても関心を高めているところである。

【5 年生】

5 年生は「海を守る」という観点で学習を進めた。太平洋にそそぐふるさとの川、高家川の源流観察をもとに、「高家川の水はきれいな状態で太平洋まで流れていくのか」ということに疑問をもち、高家川の水

生生物調査を行った。調査活動では指標と比べ、きれいな水に生息する生き物を見つけることができ、水質の良さを確かめることができた。また、きれいな川で見られ、絶滅危惧種にもなっている「ハナカジカ」という魚を探すことも、子どもたちの楽しみとなっている。今年度もハナカジカの赤ちゃんを見つけ、「大野の自然を守る会」の方から、その生態などをお聞きすることができた。また、科学的にも高家川の水質を調べようと、パックテストも実施した。高家川の上流から下流までの3か所で、COD（化学的酸素消費量）の調査を行った。結果から水質の良さを確かめることができた。しかし、生活排水が流れ込むところでは水質は「あまり良くない」という結果が出たことから、家庭の問題もあることに気付くことができた。

水生生物調査やパックテストでは川の周辺のごみ拾いも行い、ふるさとのきれいな川を守るために自分たちにできることを実践しようという意識を高めることができた。

【6年生】

6年生は「海を知る」という視点で学習に取り組み、具板的なテーマは「海につなげる森林のめぐみ」とした。「豊かな海は豊かな森が育む」とよく言われるが、その理由に関心をもって調べ学習を行った。図書やインターネット資料から、植物プランクトンが窒素などの栄養を得るためには、フルボ酸が必要である理由を知ることができた。そしてフルボ酸は森で広葉樹の葉が腐葉土になる過程でできることを知り、自分たちが住む帯島地区の豊かな森は、植物プランクトンの成長に大きな役割を果たしていることを理解することができた。

具体的な活動としては環境アドバイザーのご指導をいただき、裏山の間伐作業を行った。森の木が多くの二酸化炭素を吸収し、多くの酸素を排出し健全な森となるように、理科で学習した光合成の学習も生かした体験活動を行うことができた。

子どもたちは食物連鎖のもととなる植物プランクトンについて、さらに探究活動を行った。植物プランクトンは森の植物と同じで二酸化炭素を吸収して酸素を出している。大気中の二酸化炭素を植物プランクトンが吸収することで、地球温暖化防止にもつながることを知り、環境問題に対する関心を高めることができた。



【4年生：原子内水門付近の砂浜でのごみ拾い】



【5年生：高家川での水生生物調査】